

火曜会通信

No. 31

伊丹市文化財ボランティアの会 発行

2006.(H18.)11.1

伊丹市千僧1-1 伊丹市教育委員会事務局内

今年も・・・学校外活動・・・わくわく教室

・・・伊丹の「昔話の紙芝居・ペープサート」・

昼食と楽しいおもちゃ作り・・・

酒井かづえ

昨年に引き続き中央公民館主催の”わくわく教室 “が夏の高校野球が37年振りに決勝再試合の幕が閉じて間もない8月25日に開催されました。定員20名のところ24名の小学生と楽しく一日を過ごしました。

第一部 「どんぐり座」による紙芝居とペープサート

- ① 赤くなったコウノトリ ② 大鹿の雨乞い ③ 伊丹に猿がいなくなった話

第二部 昼食タイム

調理室において五班に分かれて 「二種類のおにぎり」と豚汁 ビニール袋にごはんを入れ自分達でにぎって皿にのせると、さまざまな形や大きさのがありました。一つ残念であったことはツタンカーメンの豆ごはんは炊き立てでワイン色に変わらぬうちに食べてしまったことです。豚汁は子ども達に人気があり「おかわり」の声があちらこちらから・・・

第三部 楽しいおもちゃ作り

男性スタッフ7名の指導により全員に“ギジギジプロペラ”と“カップラーメン利用の貯金箱” 希望者には ① 堅穴住居 ② 針穴写真機 ③ 旗ふり人形 ④ はまぐり貝の笛 ⑤ ペーパークラフト 一時間半内で夫々 子ども達の考えを取り入れての個性ある素敵な作品が完成しました。

当初“おもちゃ作り”の課題を頂いた時、何が作れるか心配しましたが、男性スタッフのアイデアにより想像以上のおもちゃが出来、作品を持ち帰った子どもの家では 本日のおもちゃ作りの話題で持ちきりであったと思います。来年も参加しますか？のアンケートに全員「はい」との回答を見て、“わくわく教室”のスタッフ一同苦労が報われました。

・・・ご協力の会員の皆さん、お疲れ様でした。・・・



中世には寺内町として浄土真宗小浜御坊を中核に北、西、南の三方を大堀川が迂回し、東側には谷の上池、下池及び上埜に囲まれており、城塞的な町が形成され豊かな寺内町に発展しました。江戸時代には大坂・伊丹から有馬に至る湯治の道としての有馬街道、京都・伏見から山崎を迂って入る京伏見街道、酒や米など生活物資を運ぶ馬備の道西宮街道(藤田)などの道筋が入り、宿場町として賑わいました。各所建物が数多くありますが紙数の都合で、宝塚市に寄贈された旧山中家の市立資料館、壱撰寺、旧和田家に留めます。市立資料館 山中家は、山中幸元の長男新兵衛が慶長19年(1614)にこの地に分家酒造業を営み、二世幸利、三世吉兵衛と家業を継ぎ小浜の酒の名声を高めました。四世宗兵衛が良和と改名し、医業に転じて以後代々医業を継いできたそうです。この資料館の右隣に山中家があります。当館入り口西側の土蔵は、山中家で使用されていたものを収蔵庫に改修したものだそうです。壱撰寺(傳日蓮權誦・蘇林權誦) 乗専が京都出雲路に建立した、後青庵を前身とし、覺如の別号をとって壱撰寺と寺名を改めましたが応仁・文明の乱(1467~86)の兵火で消失、丹波の国六人部の城主高橋氏の旧領地である小浜へ移転したとありますが、「小浜の町並を愛する会」の冊子「改定 小浜宿」の36ページには、展津名所図繪巻6の記述として次のように掲載されている。

『奥村正信旧屋小浜にあり。明應年中奥村越後正信が兄弟、並びに八尾某、壱撰寺善秀房らこの地を切り平らげ初めて庄内をひらき、小浜となれり。奥村が旧屋市店にありて、菊屋と呼ぶ。』(菊屋は、臨本陣を務めた旅泊ですが現在は若江町に痕跡を残すのみです) この寺のこの地における建立年代は不明ですが、展津名所図繪の記述にもあるように明應年間(1493~1499)、15世紀末、浄土真宗寺内町は15世紀から16世紀にかけて簇生しました。石山本願寺を頂点に奈良今井町、招提、枚方、久宝寺、塚口、富田林、この小浜等浄土真宗本願寺派(願權誦)、浄土真宗大谷派(蘇林權誦)、真宗興正派等真宗寺院を中心に町の周りに上埜を遡らし濠を掘り、四方に柵を設け、城塞的な物構は城下町より先と史実にあります。信長は本願寺に矢銭(軍資金)を要求応じない寺内町には威圧、破壊で報いた。久宝寺の顯正寺、招提敬應寺、等は早くから信長に招伏焼き討ちの聲を遣れている。小浜寺内町の壱撰寺も無抵抗であったようです。本願寺を中核に形成された寺内町でも地理的経済的条件から恭順の意を表し、町の存亡に因わる戦いは避けたようです。しかし、内心では本心で本願寺に弓を引く者はいなかったようで、荒木村重の家臣の中にも本願寺門徒がかなりいて石山本願寺に食料を運び入れ、助けたのは事実でそれが故に、村重は謀反を疑われたとするのが謀反の真相とは私個人の素人史観です。

旧和田家 北の門跡から大堀川に架かる岡料橋を渡り左へ折れ、有馬街道沿いにこの旧和田家があります。現在は宝塚市立歴史民俗資料館として一般に公開されています。江戸時代中頃までに築かれた宝塚最古の民家遺構の一つです。当家は代々庄屋を務めていた家柄。大量の古文書を有し、宝塚市建築史や近世史を探る上で欠くことのない家屋です。



旧和田家(宝塚市立歴史民俗資料館蔵)



旧和田家(宝塚市立歴史民俗資料館蔵)

このページと次のページは11期生のお二人の投稿です。

身近な歴史のふれあい（大鹿村について）

木曜グループ 田原 克巳

身近な歴史や自然にふれあいたいと思い、入会の動機はやはり郷土の歴史への興味です。伊丹庵寺、有岡城跡、伊丹郷町等々数多くの史跡や昆陽池や伊丹緑道など自然にも恵まれた伊丹という街は歴史的な文化都市としての魅力に溢れています。

サ・どんぐり一團・・・紙芝居「大鹿の雨乞い」上演を拝見させて頂きました。時々、散策しながら大鹿周辺を歩いているのですが、大鹿の歴史や文化財について、知らない事が多いことに気付きました。

大鹿村の歴史について少し調べてみました。地名、大鹿の由来は平安時代（807年）に、京の都で活躍していた征夷大將軍の坂上田村麻呂が、このあたり森の中で、大きな鹿を射止めた事から大鹿と呼び、その子孫や家来が住んで、この地を拓いたという伝説が残っています。

奈良時代には大鹿村は西国街道と有馬道が交差しており、旅人や人通りも多く、多田院という役所の請政所が置かれていたそうです。

大覚僧正の妙宣寺改宗と雨乞いの由来、妙宣寺は真言宗でしたが、文和3年（1354）大覚僧正の教化により、全村民が法華宗に改宗したという。その説には大鹿村が大旱魃で村民が困っていた時、大覚僧正が請われて雨乞いの祈禱を行なつたところ奇跡の雨が降ったことから真言宗と決別して一村あげて法華宗に改宗したと言い伝えがある。

西に100mの所に妙宣寺が法華宗に改宗したとき佛像、経巻などを、埋めたとき伝説によればその時、一緒に黄金の穂を埋め、村が貧しくなったらこれを掘って救えと伝えられ、ここの地に埋めて、丘上に松を植えて御塚（経塚）呼ばれるようになる。

又、妙宣寺の門前には竹塚のお堂の傍らにある紫竹には次のような由来がある。天保6年（1835）大覚大僧正が西国巡化の途中、大鹿村を去る時に手にした紫竹の杖を土中に差して「此竹復生、我法必興矣」と言った言葉どおり、紫竹が群生したという。大覚僧正と大鹿村との関りが深まった様です。

室町時代の末頃から酒づくりが始まったようで、のちに「大鹿の酒は山の流麗水をもって造るゆえ甚だ香味なり」と言われ、大鹿出身の酒造家で大鹿屋三郎右衛門・津屋屋勘三郎が活躍、剣菱酒造元として全国に名を広めた、豊臣秀吉や徳川將軍も好んで飲んだそうです。

西皇大神社の境内には、茶わん桶の由来の碑と当時の茶わん大の穴が開いた桶の原形が、ここに移設してあります。江戸時代（1756）に始まった瑞ヶ池の取水について昔より水かみに位置する、萩野や瑞ヶ池の両村と争いが絶えずあしかけ4ヵ年の長さにおよび、代官や庄屋の仲裁で、駒池（東野センターあたり）に新たに桶を設けその茶わん大の穴（9～12cm）より流れる水のほかは全て瑞ヶ池に取り入れることになった。その後210年余り「茶わん桶」の恩恵はきわめて大きかったようで、今も大切に残されています。大鹿の個性あふれる歴史資源は貴重な財産として言い伝え保全に、勤めたいと思います。

新入会員の感想とご挨拶までに。



伊丹麁寺跡で考える

伊丹市文化財ボランティアの会 11期生 中川 康

伊丹麁寺跡を始めて訪れた時、これには驚いた。7世紀に法隆寺式伽藍をもつ大寺院がこの伊丹台地に聳え立っていたのだ。山陽道に沿って、伊丹麁寺、猪名寺麁寺（尼崎市）、石澄麁寺（池田市）、金寺山麁寺（新免麁寺、豊中市）、芦屋麁寺（芦屋市）等の遺跡が存在している。何故、誰がこのような大寺院を建立したのかと考える。

大化元年（645年）乙巳の変が勃発し、仏教導入を推進した蘇我本宗家が滅亡した。即位した孝徳天皇は、仏教興隆を継続し、諸階層の寺院建立事業に対する援助を宣言し、また寺院の実態調査を命じている。朝廷の監督下に、寺院設営が進められ、やがて地方にも大和の主要な寺院と同様な伽藍配置をもつ寺院が相次いで建立されるようになる。

次に、白村江の戦いで、日本が唐・新羅連合軍に大敗したことである（天智二年、663年）。天智朝では、豪族の合議制などによる政治体制を止め、中央集権的な律令制的国家機構の確立を急ぐこととなった。地方豪族である国造は白村江の敗戦で直接の打撃を蒙った。中央官制が中央集権的機構として機能するためには、地方支配の安定が重要な条件であった。地方豪族が寺院を建立する場合も中央政府から造営技術の提供や工人の派遣を受けることで、国家に対する地方豪族の依存が深まった。このようにして成立した地方寺院は評（こおり）を立てた豪族あるいは評名と同名で呼ばれる例が多く、評寺と称すべきものとなり、評司を出す地方豪族の評支配を支える装置となった。寺院は、仏教信仰という宗教面に加えて、地方豪族の経済的基盤として重要な役割を果たしたのである。評を立てるとともに、寺院（評寺）を建立することは、中央政府との結合を強化し、自らの宗教的権威や経済的基盤を獲得することに役立った。すなわち、地方豪族は寺院を造営することにより支配者としての権威を示すことができたのである。

さらに、壬申の乱が勃発した（天武元年、672年）。勝利した大海人皇子が天武天皇として即位する。天武天皇は、現人神として、大王の権威を強大なものにした。その権威を背景に律令国家建設に向かって歩みだした。国家・王権と宗教との関係が整理されることになり、天皇自身の神聖を強調する方針を打ち出したことから、孝徳—天智朝に見られた無制限な仏教との関係に対しては、朝廷が管理する寺院の数を制限したり、施入された寺院の食封の年限を規定したりするなど一定の秩序化が目論まれた。一方で仏教の思想を採用した護国の理念の宣揚が試みられることになる。「金光明経」と「仁王教」とが国家を鎮護するための護国經典として国家護持に採用された。こうして、王権の擁護と権威の発揚を第一義とする仏教興隆がはかられた。

持統元年（692年）には545ヶ寺が天下に所在し（扶桑略記）、飛鳥寺以後和銅3年（710年）平城宮への遷都までの間に、約600ヶ寺が全国に建設されたことが確認されている（奈良国立文化財研究所山崎信二）。

地方の寺院建立は、時の中央政府の権威、政策と密接に関わり、地方豪族の権威発揚と経済的利益のために実施されたと考えられる。

巨木の会との初のタイアップ事業さわやかに展開

我々文化財ボランティアの会と巨木の会とのタイアップ事業で市民を対象にはじめて開催された。天候にも恵まれた10/14(土)9時半に昆陽池公園西口に集合した一般市民・両会スタッフ等約80名でまずは午前中市北西部の巨木・文化財を散策。ようやく秋らしくなったなか自然・お寺に秋を感じつつ学習散策。花あり、木あり、寺あり、神社あり、碑あり、だんじりあり、・・・満喫の半日でした。午後は緑のプラザに地域から集まった小・中学生も加わり、紙芝居・ペープサート・どんぐり工作にワイワイガヤガヤの半日でした。室内に展示したパネルや展示物は17日まで展示、参加者には好評でした。



“FM伊丹 de ラジオウオーク” に文化財ボランティアの会も協力

10/29(日)9時過ぎ有岡城跡からスタート、約40名を1班にして4班、記念品付きとあって160名のイベントは立派。イヤホンからはいろいろな声のいろいろな話を聞きながらのウオークいま流行りとか、当会からガイド担当で協力したのは三軒寺前：柴田博氏、細川氏、猪名野神社：亀井氏、辻の碑：小林さん、伊丹魔寺：後藤で10月末としては暑い秋晴れに放送時間にも左右されながら汗だくの半日でした。参加者の声に「こんなとこ知らなんだ・・・」今回も聞きました。

MG記

亀岡(七福神巡り) 珍道中記・・・ 10/31(火) 晴れ

速報

水曜G企画今回のイベント何か面白そう。今日は少し遠出の感多。常連の顔ぶれ少し少な目。福徳を求めてか、はたまた秘めたる願いごとの為か、結構な賑わいで参加者24名。8:46阪急伊丹発。会長不参加?(夕べ電話で参加と聞いたのに) 阪急京都線特急に乗り換え、かなりの満員の中やっと座席をゲット・・・女性専用車でした。ウサンクサイ3人のおじんがそそくさと隣車両へ移動。誰が決めたか女性専用車。あー、カッコわる。嵐山で会長の携帯に電話した林情報によると「寝坊で今愛用の自家用車をとばして笑面の山奥を亀岡に向けて走ってる」とか。お年寄りの寝坊とは・・・我々は渡月橋を渡ってJRへ、亀岡着。予定より1列車早い到着。『会長どこ?』と訊。『後10分で亀岡着』と、京都交通サシマワシ臨時便バス乗車。待つこと?分、会長自家用車、目の前を通過、訊したら相当な行き過ぎ、「1番目の寺で待つ」ことでバス出発。神応寺バス停着。散策開始。早速散策路に迷うことに、行ったり来たり・・・これも後々の語り草に良い久し振りの体験。会長やっと合流で総勢25名。神応寺(毘沙門天)裏庭の花の石仏庭園に感嘆。スタンプ押しては「7つ押したら何が貰えんの?」(七福マイナス1点)。布袋さんに迎えられて養仙寺(布袋尊)へ、お座敷に上げて戴き布袋さんに似た住職のお話、お茶もよばれて一同感謝。会長謝礼を心配一包み謹呈。「布袋さんまつてたら布袋さんに似るんやろか?」とは会員のひそひそ話し。さくら公園入り口付近の10月桜の下で各々昼食。篠山の大粒の黒枝豆の差し入れ(福岡さん)に一同舌鼓。午前の2福に元気百倍、午後の5福に行動開始。大黒天蔵宝寺。弁財天金光寺、競馬で幾らもうけた話、もうけられるようにの話(七福マイナス2~3点)。恵比須辨雲寺から出雲大神宮に寄り、手洗いくちすすぎの作法を知り、沸かして飲めとの神水に口を潤し、社裏の大石に3つまでの願いを聞き入れたまえと真剣??? 寿老人極楽寺では十一面観音菩薩の前で住職の講話、感謝の気持ちを持って、「有り難い」でなく、「在り難い」ここに在る喜びを持って生きよと、一同その話術に感心。これまた謝礼を一包み。本日行程の最後は福祿寿東光寺、薄暗い土間に小さな招き猫の置物が、その前に「一寸留守中」の書き物が、一寸平和な気分、緑先にはポットのお茶とお菓子が、在り難く戴き、本日の4.5キロの七福神巡り、プラス・マイナス0であまり変化のないことを願いつつと、八福目は己自身と知り八福目への精進を約した???1日でした。

後藤記

主な活動記録・今後の行事

過去の記録

- 8/1 (火) 幹事会 火曜会通信No.30発行
- 8/8 (火) 定例会
- 8/19 (土) ふれあいサロン友遊どんぐり座上演
- 8/25 (金) 中央公民館わくわく教室どんぐり座上演
工作教室
四葉センターどんぐり座上演
- 9/4 (月) 寺本ふれあいサロンどんぐり座上演
- 9/5 (火) 幹事会
- 9/12 (火) 定例会
- 9/21 (木) G 宝塚遊歩会 19名
- 9/26 (火) 市外研修 (木G) 宝塚小浜宿 名
- 10/3 (火) 幹事会
- 10/8 (日) ボランティア祭りどんぐり座上演 Cのみ
- 10/10 (火) 定例会
- 10/11 (水) 泉南市埋蔵文化財センター 80名
- 10/13 (金) G 大阪市立南郷中学校 86名
- 10/14 (土) タイアップ事業 Bコース どんぐり座上演
G 2006留学生セミナー 80名
- 10/22 (日) G 徳島私学年金 40名
- 10/29 (日) FMいたみ de ラヂオウオークG協力 160名
G 三田市中央公民館 70名
G サンマンション自治会 35名
- 10/31 (火) 市外研修 (水G) 亀岡七福神 25名

今後の予定

- 11/1 (水) 火曜会通信No.31発行
- 11/5 (日) G 伊丹有岡ライオンズクラブ 30名
- 11/7 (火) 幹事会
- 11/10 (金) G 伊丹市立北中学 (~1月3班)
- 11/12 (日) G 住まいと一く 40名
- 11/14 (火) 定例会 秋バス旅研修
- 11/15 (水) G 六甲医療生協 45名
- 11/17 (金) ~19 (日) 中央公民館フェスティバル
- 11/21 (火) G 西宮甲東文化財保存会 40名
- 11/22 (水) G 奈良県家庭相談連協 30名
- 11/28 (火) 市外研修 (金G) 大山崎
- 12/2 (土) G 原田城跡考える会 40名
- 12/5 (火) 幹事会
- 12/12 (火) 定例会

一日ニュース

- * 最近岡田家ガイドに予約外飛び入りの団体が結構ある様子。各位ご苦勞様です。
- * 『伊丹市文化財ボランティアの会』入力ホームページが見られるようになりました。1度覗いてみて下さい。

編集後記

- * 秋、さわやか・・・??? ちと、暑い!!! 地球温暖化実感???
- * 今年度から実施している定例会時の研修会についての感想や今後の計画への要望等原稿の募集をしています。どしどしお寄せ下さい。また、会運営上の希望等、一般投稿等いつでも受け付けます。なお、できればCD・フロッピー・USBでいただければ非常にありがたいですが・・・(用済み次第返却します)
- * 図書館からの要請とやらで火曜会通信の創刊号から最近号まで揃えようとした所、初期の頃の号が特に欠席しておりましたので会員諸氏の協力を求めましたところこの度全号揃いました。種々ご協力ありがとうございました。この際、最低保存部数とCD保存すべく準備をしているところです。ご要望のむきにもこたえられるかも・・・
- * イベントも多く、投稿も程ほどに、で創刊以来初の6ページ構成にしました。活動が活発になり嬉しい反面、他のボランティアも程ほどに忙しくいささかパニック状態が続いています。続く限りはがんばらねば・・・何はともあれ今号も期日刊行。ほっ。・・・・・・・ (M. Gotou)